

学校 教育 目標	「心ゆたかに、ともに学ぶ子」			
	○人の話を聞き「なぜ、どうして」を感じながら進んで学び続ける子どもを育てます。(知)		○「おはよう」「ありがとう」の言葉を大切に子どもを育てます。(徳)	
	○心と体をきたえ、明るく元気に活動する子どもを育てます。(体)		○地域の人やものを大切にし、正しい判断をする子どもを育てます。(公)	
	○ふれあいを大切にし自分のまわりの「すごい」に目を向ける子どもを育てます。(関)			
学校 概要	創立 83 周年	学校長 髭白 梨香	副校長 高林 悠哉	2 学期制 一般学級: 27 個別支援学級: 8
	児童生徒数: 846 人	主な関係校: 原中学校・三ツ境小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	原中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○「自分をつくる力」 ・自ら学ぶ ・社会とつながる ・ともに未来をつくる	原中学校 三ツ境小学校 原小学校	○自分も他者も大切にできる人 ○自分らしさを見つけ、発揮できる人 ○人や社会との関わりを大切にできる人 ・「児童生徒指導スタンダード」を共有した、児童生徒指導連携と9年間で子どもを育てる職員意識の醸成 ・原中ブロックイメージシートの継続検討、「主体的な学び」「主体的に学ぶ態度の育成」の評価についての協働研究による、指導・評価の共有・拡充 ・小中交流事業の充実、ブロック校長会・ブロック教務主任会・ブロック専任会等3校連携の促進

中期 取組 目標	<p style="color: blue; font-weight: bold;">○子どもの学ぶ意欲、自己肯定感、成就感、所属感を高めながら、「明日も来なくなる学校」にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「問い」が生まれる過程を大切に授業づくりを推進して、主体的な学びを生み出しながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自尊感情を高め、それぞれの良さを発揮し、互いの存在を認め合いながら学校生活を楽しめるようにします。 ・学校内外での人との豊かなかかわりを生かし、つながる喜びを伝え、所属感、協働性、貢献の意識を高めます。 ・規範意識と適正な状況把握力・判断力を育てるとともに、「協働」・「共生」の意識を高めて学校生活の安全・安心を高めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 主体性を高める 授業改善	<ol style="list-style-type: none"> ①子どもの『問い』が生まれる過程に着目して主体的な学びを追求する、授業研究・校内研修の企画・推進 ②「選択」「共有」を授業内・単元内に位置つけた授業実践の日常化 ③明確な「授業の焦点化」と子どもとの丁寧な共有による、「指導と評価の一体化」の確実な実現 ④「具体的評価規準」の設定、評価場面・評価方法等の理解深化による評価改善・評価力向上 (評価部からの情報発信・研修の実施) ⑤子ども自身が必要とするときに活用できる、タブレットの「学びのツール」化促進 ⑥協働的な学びを促進する、学習活動・学習隊形の多様化と学校・学年スペース・学級の環境整備(継続)
担当 研究推進・カリマネ部会 学習評価学校評価部会 ICT推進・情報発信部会 学年研究会 (指導協働化研)	
徳 協働する 児童指導	<ol style="list-style-type: none"> ①チーム担任制(AB担)・教科分担任制を活用し、すべての子どもへの見とりと働きかけとをチームで展開・充実させる教職員の協働性の発揮 ②本校の問題行動状況改善の経過共有と、本校の指導の基本スタンスの徹底(継続) ③児童指導に関する情報の計画的な発信、基本的な対応の周知による教職員の児童指導対応の向上 ④不登校傾向児童の状況と経過の分析・継続的な支援・保護者連携、非社会的傾向児童への対応の工夫(継続) ⑤子どものかかわり合いを見守る保護者相互の連携の促進、家庭訪問・懇談会・親子活動等の充実
担当 児童指導委員会 運営会議・職員会議 学年研究会	
徳 自尊尊重を育む 人権・特別支援	<ol style="list-style-type: none"> ①一般級・個別支援級との日常的な連携強化、交流活動・共同学習の意義の理解と協働 ②一般級内での特別支援的手法や合理的配慮等の拡充、対応策をともに考える職員連携 ③「よさを生かし合う」、「『ちがひ』『ありのまま』を認め合う」を核とした、「多様性」尊重・自尊尊重の意識を育てる計画的・面的人権指導の企画・実施(学年イベント・人権週間の取組以外) ④個別支援級、特別支援教室(チャレンジ)、国際教室等、個の支援ニーズに対応する学びの場の意義の共有と連携強化、児童への理解促進・人権の指導のための働きかけの立案・実施
担当 特別支援人権教育部会 学年研究会	
知 細やかな いじめ対応	<ol style="list-style-type: none"> ①「傾聴」による児童の思いの聴取と、児童・児童間の細やかな「変化」の観察(継続) ②いじめの積極認知、全職員によるいじめ認知報告への徹底したリストアップと継続的の見守り・指導 ③YPプログラム・SST等の計画実施による、児童の「人とのかかわり方」への積極的・日常的な働きかけ ④全職員での校内いじめ関係事案の状況共有・指導経過の共有
担当 児童指導部会 運営会議・学年研究会 いじめ防止対策委員会	
公開 つながりを広げる 学校地域連携 小中連携	<ol style="list-style-type: none"> ①「主体的な学び」「主体的に学ぶ態度」の実現に向けた、3校協働での合同研修・授業研究会の実施、「選択と共有」を視点とした各校授業研交流の促進 ②地域の「ひと・こと・もの」を生かし、より豊かにかかわる教材を活用した授業の積極的実践 ③登下校の安全見守りに関する保護者連携(PTA校外委員)と児童指導(学校)との棲み分け・協働についての発信・周知の徹底 ④地域見守り活動(「フラワーロード」)の本格展開への協力 ⑤PTAとのコラボによる、保護者のつながりを広げ深める活動の模索と試行 ⑥地域住民の「経験」「得意」「交流」の場・機会としての学校の活用促進、双方向でWinWinのボランティア活動の体制整備
担当 主幹会議 防災・安全・校外部会 研究推進・カリマネ部会 地域学校協働本部・PTA	
体 たゆまぬ 研鑽と改善 (働き方改革)	<ol style="list-style-type: none"> ①チーム担任制の積極的展開等に役立つ、教職員連携を円滑にするための手立ての工夫・DX推進 ②各組織や枠組み等を活用した、「学び高まる集団」としての意識の相互啓発と積極的研鑽 ③水曜午前時程を活用した市研・区研への参加勧奨、校外研究会・研修会、他校授業公開・研究発表、等への参加勧奨と成果の共有促進(継続) ④市内外での優れた実践校への積極的な視察実施(継続) ⑤午前5時間授業日の実施日拡大による、「ゆとり」の創出の試行 ⑥「お金を扱う業務」の撤廃に向けた取組、効率的な会議の実施に向けた事前の取組、「期」ごとの会議サイクルの理解とPDCAへの活用についての継続と定着化
担当 主幹会議 研修推進担当 研究推進・カリマネ部会 ICT推進・情報発信部会 学年研究会	
体 楽しく取り組む 体力向上・健康改善	<ol style="list-style-type: none"> ①土曜半日開催一本化を将来的に見据えた、原オリの実施方法の工夫・改善、実施時期に見合った活動内容の精査 ②日常的な「外遊び」の多様化と、ともに身体を動かす仲間づくりを促す「遊び」の例示(遊びを通じた児童指導・SSW) ③全校での健康促進・生活改善に向けた継続的な意識向上・行動化促進、学校保健委員会機能の拡充
担当 体育部・児童指導部会 学校保健委員会	